

諸 元			
道路規格区間	第4種第1級 自：宜野湾市伊佐 至：浦添市牧港	延長 設計速度 車線数	4.5km(今回供用区間1.2km) V = 60km/h 4車線



4 全線供用による効果

今回の宜野湾バイパスの全線供用と関連事業の牧港立地平成十年供用済で南北方向の通過交通や一般国道三三〇号に向かう交通が宜野湾バイパスを利用することにより、一般国道五八号の交通量の低減による交通混雑の緩和や、また大謝名交差点伊佐交差点等の渋滞解消につながる



総括政務次官や建設省道路局長代理の倉林道路局長の御挨拶を頂き、さらに安川沖縄県技監や比嘉宜野湾市長、宮城浦添市長からの祝辞に続き、関係者の皆様によるテープカット、す玉開披を行いました。引き続き宜野湾警察署のパトロールカーと宜野湾市立嘉数中学校マーチングバンド約五十名の先導により、「通り初め」を行い、同日午後三時から一般に供用されました。



宜野湾バイパス全線開通



その5

開発建設部

1 宜野湾バイパスについて

国頭村から那覇市までの沖縄本島西海岸の主要地を結ぶ県内延長二二キロメートルの一般国道五八号のうち、宜野湾バイパスは宜野湾市において交通混雑の著しい伊佐大謝名交差点などの交通混雑緩和を目的に、宜野湾市伊佐から浦添市牧港に至る四・五キロメートルのバイパスとして計画されました。

2 事業実施

宜野湾バイパスは昭和六十年年度に事業化し、昭和六十二年度に都市計画決定、同年度用地買収及び工事の着手を行い、昭和六十二年十月の海邦国体に合わせて国体関連施設にかかる区間を一部暫定供用いたした。



特設会場での開通式

その後、コンベンションエリアをはじめとする宜野湾市における海岸部の開発の支援を行うため順次供用し、平成六年度までに三三キロメートルの供用を行っており、真志喜から牧港間の二二キロメートルを残すのみとなっていました。

3 開通式

沖縄総合事務局南部国道事務所の主催による開通式が三月二十七日の午前十一時から宜野湾市真志喜の特設会場において行われました。主催者である南部国道事務所・富岡所長の式辞に始まり、白保沖縄開発

真志喜から牧港間は、宜野湾港第二期埋め立てに合わせ平成十年から着手し事業を進めてきましたが、本年七月に開催される九州・沖縄サミット開催時の一般国道五八号の交通緩和を図るため整備を急ぎ、今回宜野湾バイパス全線が供用されることになりました。

終点(那覇牧港交差点付近)の暫定区間については平成十二年度中の完成を予定しています。

また、将来的には沖縄本島の西海岸地域の南北軸の強化を目的として計画されている延長五十キロメートルの沖縄西海岸道路の二部として沿道地域の開発促進、国道五八号の渋滞緩和に寄与するものと考えられます。



宜野湾市立嘉数中学校マーチングバンドの先導による「通り初め」

